

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成24年10月)

～残暑や尖閣問題の影響で現状判断はさらに低下～

- 景気ウォッチャー調査・10月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3ヶ月連続で低下した一方、先行き判断は4ヶ月ぶりの上昇となった。
- 現状判断は、月の前半を中心に気温が高めとなったことで秋物の売行きに影響が出たほか、尖閣問題による影響が幅広い産業に広がっていることで、DIの低下につながったとみられる。また、エコカー補助金の終了による自動車の販売減のほか、円高や海外景気の停滞による影響も続いている。
- 尖閣問題等による影響については、中国での事業活動に関するものよりも、訪日客の減少を中心とした国内での影響が目立つ形となっている。旅行代理店やホテル、テーマパークなどで悪影響がみられるほか、一般の小売店からも不安の声が上がっている。
- 先行きの見通しについては、梅田地区での百貨店のリニューアルや駅ナカ商業施設の開業で、年末商戦の盛り上がりを期待する声が聞かれる一方、尖閣問題による悪影響を不安視する声も依然として根強い。ただし、この尖閣問題による先行き不安は、底はかたない不安から具体的な言及に変わってきたことで、先月に比べるとDIを押し下げる力は低下する形となっている。

◎尖閣問題の影響に関するコメント(現状判断)

家計動向関連	変わらない	その他飲食【コーヒーショップ】(店長) テーマパーク(職員)	・中国人観光客の減少といった記事をみるが、喫茶業においてはその影響もほとんどなく、前年と同じような推移といった感じであり、景気が良いとも悪いとも感じない。 ・海外からの旅行者(特に中国、韓国)が明らかに減ったように感じる。
	やや悪くなっている	都市型ホテル(支配人)	・中国問題で訪日客が減少し、国内旅行者の移動も減少気味である。企業の景気も一向に向上きならず、宴会の件数、金額も減少傾向である。
		都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊では、尖閣問題により10月に千人が見込まれていた中国人観光客が激減した。補てん策として国内ビジネス向けに格安のインターネット販売を余儀なくされており、収入が追いつかない。宴会においては、施策的に研修の団体客を取り込めているが、会食や宴会の受注がここ3か月ほどは低調である。会社からの経費削減により、会費制の宴会が増加し、居酒屋へ移行してしまっている。
		旅行代理店(経営者)	・竹島、尖閣諸島問題で中国、韓国、台湾、香港方面の受付がかなり減っている。中国は前年比で10%、韓国は50%、台湾でさえ70%である。全体に与える影響は10%弱程度だが、他方面でどこまで取り戻せるかは不透明である。
		旅行代理店(広報担当)	・尖閣問題等の影響が大きく、近場のアジア方面への申込客がちゅうちょしている。燃油サーチャージの値上げも発表され、より慎重になっている様子である。
タクシー運転手	・中国問題の解決が必要となっている。		
なっている(悪く)	一般小売店【花】(店長)	・中国問題による企業への打撃で今後も厳しくなる。不安材料は減るどころか増えるばかりである。	
	一般レストラン(経理担当)	・欧州や中国経済の失速に対する懸念のほか、尖閣問題等の影響など、悪い材料には事欠かない。関西経済の状況も悪く、良い話題が全くない。	
企業動向関連	なっている(やや悪く)	食料品製造業(従業員)	・極端ではないが、じわじわと悪くなってきている。例年この時期は、食欲の秋で少しずつ販売量も伸びてくるが、逆に減ってきている。当然、廉価販売は当たり前の状況で、売上が伸びない。調味料全般が悪いようにも聞いており、中国の影響も少しはある。

向 関 連 動	悪 く な っ て い る	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・中国との関係がより不安定となっている。
雇 用 関 連	変 わ ら な い	職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比で16%の増加となり、8か月連続で増加した。また、新規学卒求人数も高卒、大卒共に前年を上回っている。産業別にみると、卸売業及び派遣業が2か月連続で減少しているが、前月に減少した製造業は増加に転じ、その他の産業に大きな状況の変化はない。尖閣問題については、現時点で大きく影響を受けているという事業所の情報はないものの、中国からの輸入価格の高騰や入荷の遅れが出始めているという声もあり、今後の情勢を注視したい。

◎尖閣問題の影響に関するコメント(先行き判断)

家 計 関 連	変 わ ら な い	百貨店（売場主任）	・海外経済、国内経済の減速、中国との外交問題、電気料金の値上げ、暖冬、収入の伸び悩みなど懸念材料が多く、消費マインドの向上は見込めない。
		百貨店（商品担当）	・尖閣問題等の影響による輸入製品の調達懸念、将来の消費増税、不安定な国内政治からくる経済の不安要素が消費に悪影響を及ぼし、継続的な売上拡大は望めない。
	や や 悪 く な る	一般小売店〔花〕（経営者）	・中国問題で、安い資材が入りにくくなっている。これからクリスマス、正月と資材が必要であるが、コストが上がり、利益の減少が見込まれる。
		百貨店（売場マネージャー）	・経済全体では尖閣問題や政治不安などがあり、観光業を含め、我々のような小売業も大きな影響を受けている。一方、身近な所では、気候要因などで今後の重点商材であるコートなどの重衣料が売れにくい可能性がある。
		スーパー（店長）	・対中国、韓国の問題はもとより、ここにきて政治に大きな動きが出てきており、政情不安の増大が懸念される。しばらくは不安定な状態が続きそうな気がする。
		スーパー（広報担当）	・中国における景気減速、反日機運による製造業などへのマイナスの影響や、国内での電気料金値上げの動きなどにより、消費マインドの冷え込みが懸念される。
		乗用車販売店（経営者）	・国内的には解散総選挙の日程も決まらず不安定で、対外的にも尖閣諸島、竹島の問題も全く解決の道筋がみえず、中国向け輸出も減っている。政治、外交などの問題が解消されるまで、経済的に潤いをもたらす刺激材料はない。しばらくは、景気は低迷する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊に影響のある中国問題は解決しそうもなく、早くとも来春以降との見方である。宴会でも、忘年会の予約が低調で、円高と対中国貿易の諸問題から、宴会どころではないとの企業が多い。
		都市型ホテル（マネージャー）	・客室部門の中国からの宿泊客がほとんど見込めない状況で迎える旧正月は、非常に厳しい状況が予想される。一般企業も中国の影響と不安定な政局により、動きがより鈍化する可能性が強く、良くなる要素は見当たらない。
		旅行代理店（経営者）	・韓国向けの年末年始の予約は若干戻りかけているが、間際予約は非常に弱い動きである。10月の受付は1年ぶりに前年を割りそうで、今後も尖閣問題等がかぎとなりそうである。
旅行代理店（従業員）	・尖閣諸島問題や不安定な政局で、消費マインドは低下している。		
通信会社（経営者）	・中国問題による影響が出てくる。		
悪 く な る	コンビニ（広告担当）	・スポット的に伸びる業態はあるかもしれないが、根本的な政治不安や増税の決定、原材料高騰、外交問題（中国、韓国）による輸出入の減少、社会保障などの不安要素があり、まだ解消されていない。	
	一般レストラン（経理担当）	・中国、台湾の観光客が減っており、少しずつ景気が悪くなるのではないかと懸念している。	
企 業 動 向 関 連	く や や 良 い	輸送業（営業担当）	・中国での製造から国内工場での製造に切替える動きが今月も増えているため、景気が良くなっている製造業者も多い。
	悪 く な る	化学工業（管理担当）	・尖閣諸島問題による中国輸出の激減や、欧州の信用不安の再燃が懸念される。
雇 用 関 連	変 わ ら な い	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・中国問題で、政治経済面での展望が全くみえない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・年末から年明けにかけての動きを考えると、中国への依存度が高い関西では依然として低迷傾向が続く。
		職業安定所（職員）	・正社員の採用意欲は高いとはいえないが、業績の回復、拡大による新規求人の増加傾向は、当面の間は継続すると思われる。消費税の増税を控え、大きな需要を見込む業界もあるが、隣県では千人規模の雇用調整が予定されているほか、尖閣問題の今後の状況で大きな影響を受けるという事業所の声も多いなど、先行きの不透明感が増している。
		職業安定所（職員）	・円高や欧州の信用不安の拡大、さらには中国問題もあり、先行きは引き続き不透明である。
	職業安定所（職員）	・中国問題や米国の景気低迷などは、日本にとって悪影響が強い。	
や や 悪 く な る	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・求人件数の落ち込みもさることながら、現政権の下では重要法案通過の見通しもなく、対中国、韓国などの重要貿易相手国との関係も改善の兆しすらない。このような状態で、景気が良くなる理由は見当たらない。	
民間職業紹介機関（支社長）	・中国リスクや海外景気の不透明感により、製造業に減産の動きがあり、国内消費にも陰りがみられる。		

